

## メキシコ原油の性状について

### 燃 料 部

最近のエネルギー論議の中で、メキシコ原油が話題となっている。そこでそのメキシコ原油の性状および埋蔵量、生産量について紹介する。

ポルティエーヨ、メキシコ大統領は、54年9月の施政方針演説で、同国石油の確認埋蔵量 458億バレル、9月の生産量 162万バレルと発表した。メキシコの石油確認埋蔵量は、この数年急ピッチにふえている。最近の発表をみると、

78年3月(PEMEX年次報告) 160億バレル

78年7月(大統領施政報告) 200 〃

79年3月(PEMEX年次報告) 402 〃

79年9月(大統領施政報告) 458 〃

となっており、メキシコは、サウジ・アラビア、ソ連、クウェート、イランに次いで、世界第5位の石油大国となった。潜在する埋蔵量は、2,000億バレルとも言われ、メキシコが将来サウジ・アラビア級の大産油国となる可能性も生じてきた。

＜原油確認埋蔵量比較＞O G J 誌  
(億バレル)

サウジ・アラビア	1657	イラン	590
ソ連	710	メキシコ	458
クウェート	662		

メキシコの油田は、メキシコ湾岸沿いに北東部、中部、南部に広がっているが、特に南部のレフォルマ地区は、全土の68%を生産する最大の石油生産地域である。なお、南部カンペチエ州沖合、イストーク油井では、6月3日原油噴出事故(当初日量3万バレル、その後1万バレル程度に減少)が起り、拡散防止、除去作業と合せ、補助井掘削が急がれている。

メキシコの原油生産量は、油田の探査、開発の進行に伴って増大している。79年の生産目標は、日産170万バレルをめざしており、インドネシア生産量にほぼ匹敵する水準となっている。また、

石油輸出量も、今年は日量67万バレルが計画されている。輸出先としては、距離的に近いアメリカを中心に、カナダ、スペイン、イスラエルなどとなっている。メキシコ政府としては、対米一辺倒を避け、西欧や日本などに輸出先を分散させて

＜メキシコ原油の生産量と輸出量＞

(日産千バレル)

年	76	77	78	79 (計画)	80 (計画)
生産量	897	1,085	1,330	1,700	2,250
輸出量	98	206	365	672	1,100

いきたい意向である。

わが国へのメキシコ原油輸入は、昨年11月、35万バレルのスポット輸入(東邦石油尾鷲工場受入)が初のものである。その後、メキシコ原油の評価が高まるなかで、この8月園田外務、江崎通産両相がポルティエーヨ大統領と会談、80年から日産10万バレルの原油が輸入されることとなり、それ以降も増量について検討されることとなった。現在メキシコ原油の受入窓口となる新会社設立の準備が関係者間で進められている。

メキシコ原油の性状は、油田によって一様ではない。現在輸出にあてられているのはイスマス原油で、これは、リフォルマ油田群のサマリア(45%)クンドウアカン(27%)カクタス(19%)シテイオグランデ(8%)等の油田の原油をブレンドして作られる。イスマス原油の性状は、API(米国石油協会)比重33.0〔ボーマ度〕、S分1.7%、白油得率52%となっており、サウジ・アラビアのアラビアン・ライトとほぼ同一の性状である。世界的にみて、製品需要の軽質化と原油の重質化傾向のなかで、白油分の多いメキシコ原油への期待は大きい。

なお、イスマス原油の価格は米国ガルフ渡して中東原油に等価となるよう決定されており、10月1日現在バレル当り24.6ドルとなっている。

	イスマス	ブレンド原油				(参考) アラビアン ライト	(参考) ミナス
		サマリア	クンドウアカン	カクタス	シテイオ グランデ		
API比重〔ボーマ度〕	33.0	31.3	30.6	38.3	35.7	34	35
流動点〔°C〕	-16	-28	-13	-13	-16	-15	32.5
硫黄分〔%〕	1.7	1.7	1.8	1.1	1.1	1.74	0.1
白油分〔%〕	51.9	53.0	50.0	58.8	58.0	52	33.9
黒油分〔%〕	48.1	47.0	50.0	41.2	42.0	48	66.1